

御前山ビオトープ通信

平成17年4月20日

第14号

編集： NPO「美しい田園21」 清野



メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：

(本号はホームページの掲載記事等を再編集したものです)

目次

- 1 「御前山ダムと市民ネットワーク」
(大手町会・会報誌)

【案内図】



大手町会・会報誌 H17.4 掲載

御山ダムと市民ネットワーク

1 始めに

那珂川沿岸地区の基幹水源施設である御前山ダムは県立自然公園に位置することから、環境保全対策検討委員会を設置して学識経験者の助言を得ながら事業を進めているところです。しかし平成12年以降、チヌリや材効等の問題から委員会運営の混乱、工事の大幅な遅れ、事業費増高等など苦い経験をしてきました。そこで環境の対応方針を大幅に見直し、一昨年度から御前山ビオトープを始め事業所をあげて本格的にとり組み始めたところです。実質的にはまだ一年ほどの活動ですが期待した以上の手応えを感じました。平成17年1月21日に開催された環境委員会においても、このような事業所の対応に高い評価を頂いたところです。

2 ビオトープ運動の展開

御前山ビオトープはダムによって生息地を失う動植物の恒久的な移植保全区域として、ダムの上流域に設置されましたが、従来の公共事業の発想を変えて、可能な限り直営方式や住民参加方式を導入し、取り組みの経過を通して地域との連携を図ることとしました。

地元小学校の総合学習にも位置づけ、出前講座、希少種の移植や、古代米の田植えから足踏み脱穀

まで、地域の子供達と楽しく交流できて職員にとっても貴重な経験ができました。また結果として円滑な施工とコスト縮減にも有効であることに気が付きました。

「ビオトープは作るものではなく育てるもの」との合い言葉で完成図面はありません。今後希少種の移植保全やビオトープの管理だけでなく、以下のような取り組みが出来たらと考えています。

- ・ ダム上流域に希少種を移植してカクリ、ヤマブキウ、エビネ等花の群落に囲まれた桃源郷、ハッコウトンボの里等々を再生
- ・ 四季折々にハッコウトンボ、ホタル等の観察会、山野草観察ハイキング
- ・ 子供達と一緒に田んぼの学校やアウトドア教室開催
- ・ 風土工学による地域文化伝承の発掘
- ・ 湖水祭り、トライアスロン大会などグリーンツーリズムの主催

等々年間を通して、子供達の自然体験の場、地域や都市農村間のふれあい交流の場を提供できればと考えています。

3 環境対策とコスト縮減の両立

一方、目下作業中の計画変更では地元負担軽減を図るためコスト縮減のぎりぎりの検討を行い、その中から、新たな解決策として、環境問題とコスト縮減を両立させる思い切った対策を見当しています。一般に環境対策はかかり増し経費が常識ですが、創意工夫によってはコスト縮減の可能性もあり、一石二丁をめざしました。

各論はこれからですが、いくつかイメージを紹介し
ます。

- ・ ダム下流法面にスーパー堤防方式で残土を盛立て
土捨て経費を節減、そこにエビ、山桜を植栽し
材木ヤサキ（国蝶）の森を再生、ダム頂上には石
積みの万里の長城を復元し湖を一望
- ・ 湛水敷の伐採した立木はチップにして遊歩道の
舗装材として処理し、廃棄物処理費や舗装費
用を節減
- ・ ダム周辺整備に直営施工を導入し、遊歩道を整
備し、山野草を観察しながら散策できるルート開
発
- ・ 不耕起栽培の普及、間伐支援等により流域管
理、水質保全を図り将来の維持管理費を節減

このような取り組みに出来るだけ住民参加や直
営方式を導入することによりコスト縮減を図ると共
に、事業完了後の適正な管理に繋げていきたいと
考えています。

4 市民ネットワークについて

事業所としては、計画変更後、あるいは事業完
了後までも睨んで、前項のような課題の具体化に
向けて取組んで行く予定ですが、当面する課題と
して、ビホプ活動継続発展させるとともに、今
後、平成20年の湛水開始を前にして湛水敷地内
の希少動植物の移植を本格的に実施する必要に迫
られています。

また周辺環境を見渡すと、外部から来た人によ
る希少種の乱獲、廃棄物の不法投棄、過疎高齢化
で管理放棄された水田や山林の荒廃、除草剤の使
用など深刻な問題も解ってきました。

ダム建設に伴う詳細な環境調査により御前山周
辺の豊かな自然環境が評価され、住民参加による
環境保全対策によって地域の環境意識が高まりま
した。もしダムがなければ、周辺の貴重な自然環境
に気づかず、他の種々の要因でより大きなダメージ
を受けていたかもしれません。

御前山周辺の貴重な自然環境を将来に渡って守
っていくためには、ダム関係者や行政だけではなく
幅広い市民と連携したネットワークが不可欠と実感し
ました。

そのための「協議会」や運動体の体制を検討し
ています。

5 終わりに：あなたも参加しませんか

御前山ビホプにしても、自然再生構想にしても、
事業を進める中で迫られた環境対応やコスト縮減へ

の対応から捻出された構想ではありますが、今後
の公共事業のあり方を考える上で大切な要素を育
んでいます。

全国的にもアドプトプログラムによる公共施設の管
理が普及し、ダムなどは事業所OB会による「育て
る会」が全国各所で活動しています。

大勢の市民の皆さんに第二、第三の人生の社会
参加、生き甲斐、健康管理の場として市民ネットワ
クに是非参加頂きたいと考えています。

すでに茨城県在住の会員の皆様には準備会とし
て協力頂いていますが、多様な参加形態を用意す
る予定ですので、より多くの皆様の参加を期待し
ています。

ゴルフ三昧や趣味も結構ですが、金がかかり社会
参加としては少し物足りないのではないでしょ
うか。かといって、中越地震の支援など、若者には
馴染みやすいボランティア活動についても、年代的に気
遅れを感じている方が多いと思います。

まだまだ元気なOBの皆さんには、たまの週末
や平日でも結構です。友人とあるいは御夫婦で御
前山に来てみませんか。

山野草を鑑賞しながらのハイキング、野鳥の観察会、
子供と一緒に農業体験、炭焼き、得意の土木作業
や日曜大工でダムの周辺整備、間伐などの森林管理
など何でもできます。

大木をチェーンで切り倒した時の感触はナイスショットに
負けない爽快感があります。汗をかいた後は近くに
温泉（四季彩館）もあります。夜は地元の親父
と酒飲み談義も楽しいですよ。現役の若い後輩職
員との交流の場ともなります。

それだけで満足できない更に元気な方は、役員や
事務局員としての参画も歓迎します。

（清野 修）

